

第3種郵便物認可

沖 縄 時 代

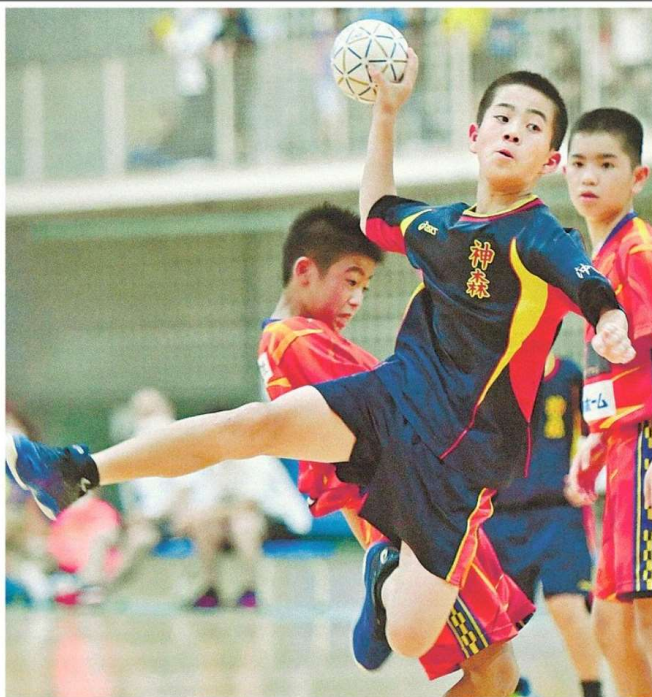
沖プラ杯小学ハンドボール

ハンドボールの第13回沖縄プラント工業杯争奪第40回県小学生大会（主催・県ハンドボール協会、共催・沖縄タイムス社、協賛・沖縄プラント工業ほか）最終日は25日、ANAアリーナ浦添で行われた。男子Aパート1部決勝は神森が琉球コラソンU12を20-15で制し、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった2020年度を挟んで3連覇、16度目の優勝を飾った。女子決勝は浦城が天久を26-12で破り、4年ぶり7度目の頂点に立った。

男女Aパート1部の優勝チームは全国大会（8月4～7日、京都府）に推薦されるが、全国大会の参加資格に準じて、男子は女子選手を含む混成チームの神森ではなく、2位のコラソンU12が派遣される。

▽男子Aパート1部
 準決勝
 コラソン 19-18 宮 城
 神 森 21-13 前 田
 決勝
 神 森 20(11-7)15 コラソン
 (女子Aパート1部)
 準決勝
 浦 城 22-17 宮 城
 天 久 12-11 当 山
 決勝
 浦 城 26(13-7)12 天 久
 (2部)
 決勝リーグ第2、3戦
 サウス那覇 11-9 牧 港
 東 東 サウス那覇 10-6 宜 野 湾
 東 (女)
 ▽同最終成績 ①サウス那覇東
 2勝②牧港1勝1敗③宜野湾(女)
 2敗

神森V316度目優勝



②男子Aパート1部決勝 神森一琉球コラソンU12 後半、神森の國吉健太がディフェンスをかわし14点目のシュートを決める=ANAアリーナ浦添（名護大輝撮影）①男子Aパート1部優勝の神森



攻守一丸 優位保つ

スポーツ 男子・神森がコラソンU12を20-15で退けた。相手ディフェンスの間隔が大きいと見るや隙を突いて攻撃を仕掛けた。國吉健太主将は得意の1対1から切り込み、前半だけで8点

を決める活躍で、11-7とリードして折り返した。後半はボールを回し、宮里祐輝が相手ディフェンスに割って入り加点。再びリードを広げた。ゴールキーパーは安谷屋美瑠愛。4年生から競技を始めたが、先輩の卒業で女子チームが消滅。

ともに練習してきた仲間で、「自然の流れ」（翁長誠光監督）で男子チームに加わった。安谷屋は相手エースのシュートを何本も止めた。「最初は怖かったが、止めたら、みんなが『うえーい』して（たたえて）くれて元気が出た」と振り返る。他のチー

ムに移る話もあったが「神森に残ってよかった」と話した。男女混成になったことで、全国大会には進めないが、指導する翁長監督は「仲間を思いやる気持ちがこの結果に結びついた」と目を細めた。

(内間健)

浦城 走力戦で頂点 女子7度目

女子・浦城は、持ち前の走るハンドボールで終始リードを保ち、26-12で天久に勝ち切った。前田愛梨主将は「みんなが全力を出して勝って良かった」と笑顔。

身長で勝る相手と前半4分までは点を取り合った。守備は積極的に前に出て、相手にプレッシャーをかけ、ボールを奪うと速攻へと走った。エース大田千紗がおとりになるなど、巧みな戦術も絡めて13-7で折り返し。

ハーフタイムで「最初の5分で離して流れをつかもう」と確認した。大田、前田が次々と得点し、狙い通りリズムに乗り、一気に引き離した。



前田主将は「ここまでできたから、全国制覇したい」と抱負。大田は「自分はシュートを打つ機会が多い左45ポジションなので、決める時には決めた

い」と決意を示した。謝花歩美監督はチーム全体の成長を感じ「全員が頑張った」とたたえた。

